

都民連だより

冬

平成30年1月
(第53巻3号)

特集 1万人の児童委員活動

- 新春のごあいさつ ●民児協活動紹介「神楽鳩子の班活動探訪③」 ●わがまち100
- 都民連通信「第71回東京都民生委員・児童委員大会」(別紙:大会宣言・重点項目について)
- キラリ☆この人 ●東社協コーナー ●活動記録あれこれ ●ミンジーレポート ●編集後記



2017年実施 第1回足立区街フォトコンテスト投稿作品 ((一財)足立区観光交流協会)

東京散歩

西新井大師

(足立区)

正式名は五智山遍照院總持寺。古来より「火伏せの大師」「厄除開運」の霊場として有名です。御利益は、厄除・方位災難除・家内安全・学業成就・交通安全・旅行安全・商売繁盛・開運などで、境内には西新井の由来になった井戸や、御堂内の塩をイボに付けるとたちまち治るといわれる塩地蔵などがあります。正月三が日には毎年50万人を超える初詣客を迎えるほか、最初の縁日である1月21日の初大師(写真)にも多くの参詣者が息災を願いに訪れ、朝から街商や達磨等の縁起物売る露店も立ち並び境内をにぎわせます。また、各所には四季折々の花が植えられ、季節の移り変わりを楽しむ事ができます。中でも牡丹は有名で、約100品種2,500株が植えられ、例年、4月の見頃になると色とりどり咲き誇り、見る人を魅了します。

交通アクセス:東武大師線「大師前駅」下車 徒歩5分



新春のごあいさつ



東京都民生児童委員連合会
会長 寺田 晃弘

謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

昨年七月に開催された民生委員制度創設百周年記念全国民生委員児童委員大会は、おかげさまをもちまして無事、盛会裏に執り行うことができました。主催者の一員としてはもとより主催地の地元民児協としても安堵致しております。準備から当日の運営までを含め、さまざまにお力添えを賜り心より感謝申し上げます。

さて本年は、東京の民生委員の始祖とされる「救済委員」が設置されて百年を迎えます。大きなイベントは行いませんが、普及・啓

発事業や訪問活動など民生委員・児童委員の原点に立ち返る取り組みを全都的に推進することとなっています。これは、本会が策定した今後の活動指針となる「東京版活動強化方策」とも深く関連しています。子どもから高齢者まで、また障がいのあるにかかわらず誰もが安心して暮らし続けられる東京の実現に向け、本会としても活動強化方策の着実な実践にまい進する所存です。

百周年記念事業の仕上げの年として、さらに次の十年に向けたスタートとして皆様方の一層のご参加とご協力を期待しております。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

戌



特集

1万人の児童委員活動

■民生委員・児童委員

児童福祉法第16条「民生委員法」による民生委員は、児童委員に充てられたものとする」70年前の昭和22年、日本で初めてすべての子どもたちの権利の保障を目的として誕生した法律において、こう定められました。児童福祉社とともに要となる立場です。

では、児童委員活動の歴史も70年かと言うとそうではありません。東京の民生委員の始祖である「救済委員」も、その後救済委員に



▲救済委員が活動していた地域



▲乳幼児愛護デー (昭和3年)

こうした100年前から子どもたちに寄り添う活動の実績が、「民生委員が児童委員を兼ねる」歴史へとつながっていったのです。



▲無料理髪所に集まった子どもたち (昭和5年)

今回の特集では、そうした先人の思いを引き継ぎ、「児童委員活動」の推進に向けて、各地区の取り組みを中心にご紹介します。

■意識すると見えてくる地域の子どものたち

児童委員活動の第一歩は、児童委員であることを意識し、学ぶことです。子どもに関するニュースや地域活動を気に掛けたり、地域の子ども家庭支援センター、児童館などの関係機関の役割に目を向けてみましょう。また、明日からできる活動の一つに「83(はちさん)運動」があります。普段の

買い物や犬の散歩などを、登下校時間である朝8時と午後3時にすることで、子どもたちを犯罪から見守ることが出来ます。

■ **生きづらさを抱えた子どもと家族を丸ごと支える**

子どもの問題は、虐待や貧困、親の疾病など、家族の問題が影響をしていることが大半です。民生委員が児童委員を兼ね、期待されている点はまさにここにあります。**家族全体を見る**強みを生かした支援が求められています。

また、日常子ども分野の関係機関の窓口となつて主任児童委員との連携も不可欠です。単独で関わるのではなく、民児協というチームプレーで子どもと家族を支えていきましょう。

■ **子どもたちに関わる実践活動**

直接子どもたちと関わり、信頼できる地域のおじさ

ん・おばさんとして知ってもらつ実践活動は、各地区でさまざまな特色を持って展開されています。活動を通して子どもを地域で温かく育む機運の醸成にもつながっています。

子育て応援団
孤立と虐待予防の取り組み



大田区蒲田西地区では、民児協主催で「ママほっとタイム」を開催しています。リフレッシュ体操時に委員が赤ちゃんを預かり自分だけの時間を過ごしてもらったり、ママづくりの時間を設けたりしています。短い時間でも気分転換した後は、またわが子と笑顔向き合えると喜ばれています。

町田市では保健師からの



中央区
いつでも立ち寄れる子育てサロン。親子が集中する時間帯に協力しています。

依頼を受け、乳幼児健診未受診家庭を委員が訪問しています。様子を把握するだけでなく、近隣に住んでいていつでも相談に乗れることを直接伝えられる活動です。



三鷹市
乳児家庭全戸訪問事業を通して、町中であいさつする関係ができました。

学齢期の児童と
関わり関係を育む



世田谷区奥沢地区では、小学4年生を対象にした「福祉体験学習」で車いす体験や障がい者スポーツ施設の見学等に協力しています。福祉を身近に感じてもらつ機会を提供に携わっています。

府中市第一地区では、ひとり親家庭や不登校の子どもを対象に、**食事提供と学習支援**をボランティアと共

に行っています。地域の大人たちと交わす優しい言葉は、子どもたちの成長の糧となります。

世代を超えて
交流の輪を広げる



中野区上鷲宮地区では、中学校PTAによる「生徒と高齢者の茶話会」において、地域の高齢者を紹介し、当日は運営に携わっています。高齢者にとつても楽しいひとときとなるこの活動は25年も続いています。

狛江市ではあいきつ運動等で長年培つた関係を生かして、高齢福祉部会で作製した**健康長寿カルタに、中学校の美術部の生徒に絵を描いてもらいました**。高齢者たちから大変好評です。



立川市第六地区
地元の高齢者と子どもたちが、一緒に昼食作りや歌やゲームを楽しみます。

■ **児童委員として
直感を大切に**

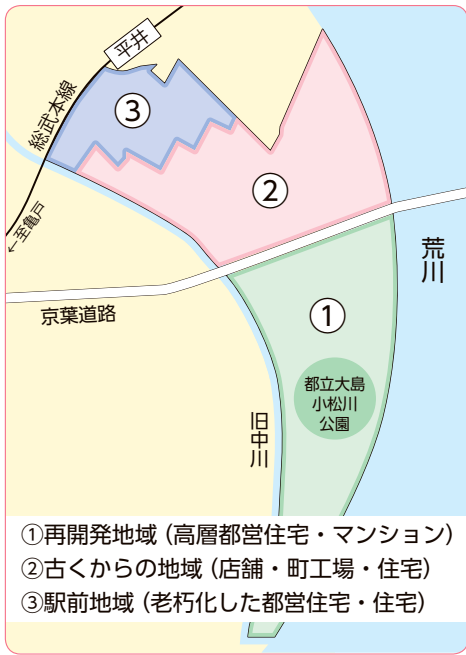


港区芝地区
赤ちゃんとお親が先生となり、命の大切さを中学生に教える取り組みに協力しています。

昭和2年に開催された第1回全国方面委員会議の折、会長の渋沢栄一氏は「人に対する処置においてもっとも重大なものは『親切』である」と述べています。思いやりを持つてその人のために尽くすこと、まさに民生児童委員の歴史は「親切」の積み重ねと言えます。その「親切」なまなざしを、日々子どもたちに向けて、時に言葉にならないSOSに気付くことができます。その直感を大切に、子どもをの明るい未来のために、心を寄せた活動が期待されています。

江戸川区小松川第一地区民児協

班編成：3班 定数：28名



- ①再開発地域 (高層都営住宅・マンション)
- ②古くからの地域 (店舗・町工場・住宅)
- ③駅前地域 (老朽化した都営住宅・住宅)



神楽鳩子の

班活動探訪③



民児協
活動紹介

班長となって1年が過ぎたある日、欠員地区を代行する委員から「負担が大きいい」と打ち明けられました。代行委員の負担軽減や一日も早い欠員補充に向けて班として何ができるか、そのヒントを求め今回鳩子が向かったのは…。

班で適任者を掘り起す

前回の一斉改選では、都内で800人を超える欠員が出ました。欠員が常態化している地域では、高齢化が進んでいたり、推薦母体となる町会・自治会が機能しにくい状況にあることが指摘されています。そのようなか、欠員を埋めたいと模索していた江戸川区小松川第一地区の清藤公清会長が着目したのが、東京版活動強化方策の柱である「班体制の確立」です。参加した研修会で、その



▲清藤会長(右から2番目)とブロック長

効果として説明されていた「班という地域からの委員の選出」という言葉が背中を押しました。

当地区では「班」と同様、道路や住環境、町会や自治会の状況に応じて地域を3つに区分けする「ブロック」という考え方がありましたが、ブロック単位での活動はほとんどありませんでした。

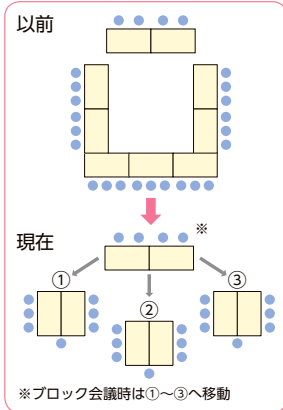
そこで取り入れたのが、「ブロック(班)会議」です。年3回の自主民児協終了後、30分程度を目安に各ブロックで情報交換を行っています

会議の座り方

す。議題は、事前に開く正副会長会で打ち合わせますが、副会長はブロック長としているため、当日の進行が円滑な上、ブロックの意見を持ち帰り、民児協運営に生かすことができます。

座席もブロックごとの島の形に変えました。以前のコの字型は、気軽に発言する雰囲気ではありませんでしたが、少人数のグループで座ることで互いの距離が近くなり、話しやすくなりました。

さらに、近隣地区の委員同士で隣り合って座るため、地域行事の伝達や調整も容易です。ケースの相談をす



※ブロック会議時は①～③へ移動

る際も、土地勘があるので状況を想像しやすく、地域資源が共通しているため助言がより具体的になりました。

何より欠員についてブロックで話し合うことで、代行者の負担を仲間と分かち合い、欠員をブロック共通の課題と捉える機運が高まりました。現在、隣接地区からの補充も視野に入れながらブロックで適任者の情報を出し合い、民児協の組織力を生かした候補者探しを進めています。



4回目となるこの日のテーマは「高齢者調査」。訪問して困ったことや対応の工夫が話し合われました。「班体制なんだから、抱え込まず一緒に対応しましょう」との声掛けが印象的でした。



わがまち

100



本会では、民生委員制度創設一〇〇周年を記念し、①活動強化、②記念行事、③歴史総括の3つの視点から、各民児協がわがまちならではの二〇〇周年の取り組みを展開していくことを提唱しています。今回は、福生市で取り組まれた「一日民生児童委員」をご紹介します。

福生市 民児協

(定数：52名)

市長を一日民生児童委員に

民生委員制度創設一〇〇周年を迎えた平成29年度の「民生委員・児童委員の日活動強化週間」の取り組みを盛り上げようと、福生市で



▲委員と一緒に啓発用品を手渡す市長

は、板寺正行代表会長の発案で、加藤育男福生市長に「一日民生児童委員」として普及・啓発活動に協力いただきました。市長には、委員と一緒に取り組むことで、活動の実態を知ってもらうとともに、市の代表として役割や活動内容を市民に普及・啓発していただくことがねらいでした。

一日民生児童委員は、活動強化週間の初日に実施。委員が活動する際のユニフォームとして新調された紺色のポロシャツを市長も

着用し、役所を訪れた市民に普及・啓発用品を配って、行政も日頃から活動を支援していることをアピールしました。市民の中には、委員と同じ服装で啓発用品を配る市長を見て、はじめは驚いたり遠慮したりしていた方もいたそうです。しかし、委員に負けないほどの熱意で呼び掛ける姿に、次第に笑顔でティッシュを受け取ってくれる方が増えていったといえます。

サロンにおける交流

その後市長は、民児協で長年取り組んでいる子育てサロン「はとぼっぼ」へ移動。過去にも見学されたことはあったそうですが、この日は一日民生児童委員として、絵本の読み聞かせや即興で手遊び歌を披露するなど大活躍されました。普段は見ることができない市長の姿に、会場は大いに盛り上がり、いつにも増して和やかな時間となりました。



▲市長の読み聞かせに聞き入る親子

さらに、母親たちの情報交換にも参加し、市民の生の声に耳を傾けました。「民生委員さんがいると安心する」との声が聞かれ、市長は、改めて委員の役割の重要性を感じられたそうです。こうした交流から、「子育ての不安や悩みは気軽に民生児童委員に」、また、「子育てするなら福生」をアピールすることもできました。

一日民生児童委員の効果

今回の取り組みから、板寺会長は首長の協力による普及・啓発への影響の大きさを実感したそうです。新聞社や地域のケーブルテレビが活動の様子をつぶさに伝えたことで、後日市民か

ら「テレビ見たよ」と声を掛けられた他、新たに市外から「はとぼっぼ」に参加する方がいたり、他の自治体から取り組みを参考にしたいと問い合わせが多数寄せられたりなどの反響がありました。一方で、今回は朝の時間帯を中心に役所で実施したため、今後はより多く人が集まる時間帯や、より住民と触れ合えるような場所にも配慮すべきという気づきが得られました。

本会では、平成30年度の救済委員制度誕生二〇〇周年記念事業として、全都で「一日民生児童委員」に取り組むこととしています。首長が委員と一緒に活動する姿は住民に大きな印象を与え、役割や活動への理解を深める絶好の機会です。

取り組み上での内容や方法は各区市町村でご検討いただけますが、地元民児協の特色ある実践活動などを体験していただくことが、より効果的と言えます。



第71回東京都 民生委員・児童委員大会



平成29年11月16日、文京シビックホールにて開催された本大会には、都内の約1800名の民生児童委員が参加されました。その大会内容をお伝えするとともに、採択された大会宣言について別紙にてご紹介致します。

活動に対する 顕彰と感謝

第一部の式典は、功績のあった方々への表彰と大会



▲規則表彰贈呈
被表彰者を代表し、川澄副知事から表彰状を授与される桑原様

宣言の採択が中心です。

東京都知事表彰は、長年にわたる民生児童委員活動の功績を讃え、贈られる表彰です。今年度の東京都表彰規則による被表彰者（在職20年以上）は43名、特別功労賞受賞者（在職17年以上）は52名、一般功労賞受賞者（在職10年以上）は45

名でした。受賞されました皆様、誠にありがとうございました。都民連会長感謝状は民生児童委員活動にご協力いただいた行政・関係機関の職員にお贈りしています。今大会では27名の方々に贈呈致しました。



▲宣言(案)朗読
議長団の進行により、大会宣言が採択されました(宣言の全文は別紙参照)。



▲日野市民生児童委員協議会合唱団「かしの木」のびやかな歌声に会場全体が魅了されました



▲笑いも交え、障がいの特性や関わりの工夫をご講演くださいました

子どもにとって大切なのは 周りの人から愛されること

第二部は、堀内祐子氏をお招きし、ご講演をいただきました。4人のお子さん全員が発達障がいがあり、戸惑いながらも、楽しく子

育てしてきたという堀内氏。お子さんとの具体的なエピソードを数多くご紹介いただきました。明るく前向きなお話に引き込まれ、「障がいの有無にかかわらず、人として向き合う大切さを感じた」「社会の財産である子どもたちの成長を地域で見守っていききたいと思っただ」と参加者にも大変好評でした。

◆次第◆

【式典・宣言】

国歌斉唱
物故者の追悼
民生委員児童委員信条の朗読
鎌形由美子様(墨田区)
主催者あいさつ
東京都副知事
東京都民生児童委員連合会会長
都知事表彰贈呈
規則表彰 桑原 恵子様(西東京市)
特別功労賞 高橋登志子様(足立区)
一般功労賞 小池 宗和様(世田谷区)
都民連会長感謝状贈呈
関根 洋一様(文京区民生委員所管課)
祝辞
東京都議会議長
東京都社会福祉協議会会長
被表彰者代表のこぼ
田中 和夫様(江戸川区)
大会宣言
議長団 池永 和子様(清瀬市)
榎本 義彦様(北区)
板寺 正行様(福生市)
宣言(案)朗読 田中 敏様(練馬区)
民生委員の歌斉唱

【コーラス】

日野市民生児童委員協議会合唱団「かしの木」

【記念講演】

「発達障がいの子と幸せに暮らすヒント
—4人のわが子が教えてくれたこと—」
堀内 祐子様
(自閉症スペクトラム支援士、発達障害ハッピーサポート代表、
発達障がいのある4人の子どもの母親)

平成29年度 秋の叙勲・褒章受章者のご紹介

- 瑞宝単光章** 青木 和子様(文京区)
鷲頭 和江様(渋谷区)
福嶋 郁子様(杉並区)
- 藍綬褒章** 宇田 友子様(八王子市)

誠におめでとうございます

表彰受賞のご報告

平成29年度全国社会福祉大会にて、本会が厚生労働大臣表彰を受賞しました。受賞理由は「共同募金活動への貢献」です。都内各地区民児協の取り組みが認められ、昨年度の中央共同募金会会長表彰に続く受賞となりました。皆さまの多大なご協力に感謝申し上げます。



キラリ★この人



ジオラマの「町」が地域のつながりの大切さを教えてくれます

調布市民生児童委員

すぎもと まさる
杉本 勝さん

「気軽に高齢者が集える場所を」と自治会でサロンを立ち上げた杉本さん。そこに集った仲間で作ったのが昭和20年代の調布の町並みを再現したジオラマです。

きっかけはサロンでの“昔話”。「当時はあそこに酒屋があった」「あっちでしょ?」「いやこっち」と、各自の記憶がまちまちで「それなら形にしてみよう」と製作が始まりました。家の大きさを1軒1.5cmと決め、紙を切ったり貼ったりしながら思い出話はどんどん盛り上がっていったとか。「元気な声や笑顔がうれしかった。民生児童委員にならなければサロンをやろうと思わなかったし、自治会役員だけでは経験できなかった喜びだと思う。委員の委嘱を受けて良かった」と杉本さんは語ります。



ジオラマは地元小学校の創立110周年に合わせてお披露目され、現在も小学校の展示室に飾られています。自宅の模型を指差して孫に説明する高齢者や、興味深く質問する子どもたちが印象的で、地域住民の交流の場にもなったそうです。その姿を眺めながら、近所同士の助け合いがあった自身の子どもの時代を振り返り、“人は地域に育てられるのだ”と実感されたといいます。「みんなと一緒に生活を営んでいくこと。その幸せを感じられる温かな地域をつくっていきたい」と日々の活動に取り組んでいます。

東社協コーナー

東社協（東京都社会福祉協議会）

社会福祉に関わるさまざまな課題の解決や、福祉サービスの向上などを目的として、都内の福祉に関わる関係者の幅広いネットワークづくりを通して、だれもが暮らしやすい地域社会の実現をめざして活動しています。

大島土石流災害から4年・・・ 住み慣れた地域で安心して暮らせるための見守り

「平成25年台風26号」による大規模な土石流災害が発生してから4年が経過する東京都大島町では、被災住民や被災地域の住民が住み慣れた地域で安心して暮らせるように生活・復興支援が継続されています。

民生児童委員による普段の暮らしの共有

大島社協では、平成28年3月より、関係機関が情報を共有し的確な生活・復興支援をしていくため、「大島町被災者生活支援連絡会」を設置しています。大島社協、大島町民生児童委員協議会、東京都大島支庁、東京都島しょ保健所大島出張所、大島町役場（福祉けんこう課、子ども家庭支援センター、土砂災害復興推進室）が、被災者の生活支援に必要な事項について情報を共有しています。

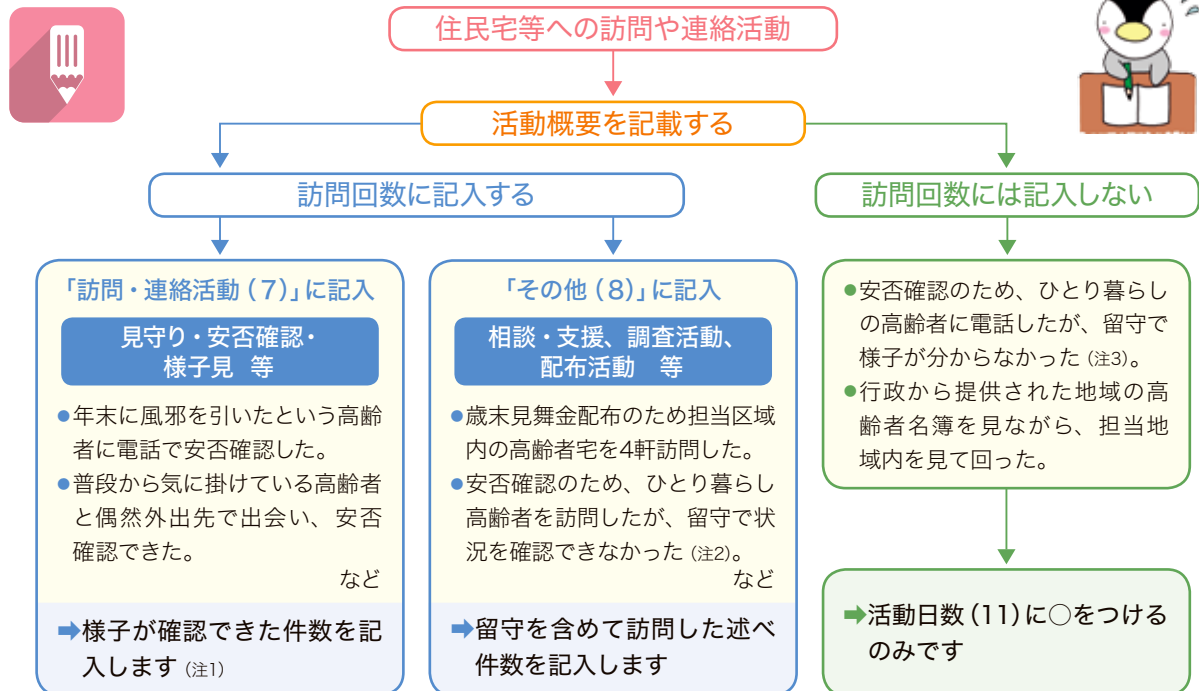
対象者リストは現在410名で、大島社協が管理

し連絡会での情報を基に更新しています。今、重点的に情報共有をしている住民は、被災により家族を亡くしたり、生活状況が変化した高齢者や障がい者、子ども等10名です。

具体的な内容としては、現在の健康状態や通院状況、年金等制度の利用状況、就業状況、現在の困りごとなどについて、訪問や関係機関を通じて得た情報を共有しています。大島社協事務局長の藤田好造さんは、「住民同士の距離が近い島の環境では、内容によって町の機関にかえて相談しにくいと感じる方もいる」と話します。民生児童委員も連絡会にはいることで、専門職への相談内容だけではない、普段の暮らしの様子も共有することができ、連絡会を通して何気ない場面での自然な地域での見守りにつながっています。



今回は、地域の気になる住民を安否確認したなど、住民に対する「訪問」や「連絡活動」を行った際の記入について、確認していきましょう。



- 注1**：対象者の見守りをした際、居宅の外からでも本人の様子や状況の変化を捉えるサインが分かるようであれば、「訪問・連絡活動(7)」に記入します。
- 注2**：見守り・安否確認のために訪問したものの、留守だったり相手の状況が分からなかったりした場合は、「訪問・連絡活動(7)」には記入しませんが、訪問したという事実に着目し、「その他(8)」に訪問した回数を記入します。
- 注3**：安否確認の目的で電話をしたが、相手が留守だった場合は、確認も連絡もできなかったため、訪問回数には記入せず、活動日数に記入します。



新コーナーの
お知らせだよ

ミンジーレポート

次号より新コーナーが始まります。
その名も「こんなに違う!? 世界の福祉」
日本と世界各国の福祉・医療・教育等の制度やサービスの違いを紹介するよ♪

2020年のオリンピック・パラリンピックも近付いてきました。
これを機に世界の人々はどんな生活を送っているのか、ミンジーと一緒に思いを馳せてまいりましょう。
驚きの実態が明らかになるかもしれませんね!



編集委員

小田島真理子 (千代田区) 田中 千津子 (文京区)
山内 壽子 (品川区) 安井 敦子 (豊島区)
宮本 勝男 (足立区) 五辺 博子 (狛江市)
石川 謙一 (府中市) 森田 節子 (清瀬市)
北村 実 (昭島市)

編集協力

池永 和子
(都民連副会長：広報担当)

編集後記

民生委員制度創設100周年を迎える期に都民連だより編集委員を仰せつかりましたことに特別なご縁を感じます。今期編集委員会の熱く活発な意見交換の様子は、諸先輩方にも満足していただけるものと確信しております。実施された事業や施策を踏まえ、都民連の目指すこれからの方向性を一緒に考えて、情報の宝庫といわれるような紙面作りに励みます。どうぞご期待ください。

やすい あつこ
安井 敦子

発行

東京都民生児童委員連合会
〒162-0823
新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4階
TEL: 03 (3235) 1163 FAX: 03 (3235) 1169
E-mail: tominren@tcsv.tvac.or.jp
年4回発行 印刷: 株式会社トライ